



## 偉人の言葉

『常識』の反対は、『独創的』である。

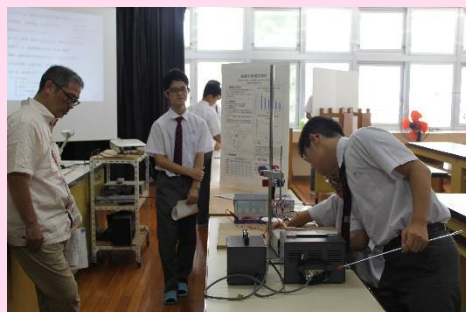
田中 耕一(ノーベル化学賞受賞者)

# SS理数探究Ⅱの中間発表が行われました！！

9月12日(金)に、SS理数探究Ⅱの研究発表会が球陽高校の理科教室すべてを使って行われました。琉球大学から、西田睦氏(理事・副学長)、辻瑞樹氏(農学部教授・風樹館館長)、照屋俊明氏(教育学部・教授)、杉尾幸司氏(琉球大学大学院教育学研究科・教授)、古川雅英氏(理学部・教授)、前野昌弘氏(理学部・准教授)、山城康一氏(教育学部・准教授)、また、沖縄県教育委員会から島田純氏(教育庁県立学校教育課・普通教育班班長)、真壁慎治氏(教育庁県立学校教育課・指導主事)にお越し頂き、ポスター発表を通して、研究の御助言を頂きました。その他、向陽高校、名護高校、那覇国際高校、開邦高校、宮古高校、八重山高校の理科の先生方が見学にいっしょにいました。生徒達は、ポスターを通して自分達の研究内容を、見学に来て頂いた先生方や関係者の方々、また違う科目の生徒にも発表を行いました。ポスター発表だけではなく、自分たちで作った実験装置で演示をしてみせたり、プログラミングされたロボットを実際に動かして研究内容を発表したグループもありました。最後には、各科目の専門分野の先生から、中間発表の講評を頂きました。

## 琉球大学の先生方からの講評(まとめ)

- ①ポスターは人がみるものである。データを見せるときは、自分がわかるようにまとめるのではなく、相手がわかるように作成すること。分からない人に教えるためのポスターである。
- ②自分でちゃんと考えていて、質問するとちゃんと自分の考えを答えることができるところが昨年と違って良かった。
- ③データの分析をもっとすること。例:データを数値化する。フィールドのデータはいらないデータを取り除く。複数回データをとる。平均値だけをもとめるだけでなく、統計もとってみる等。
- ④最初のテーマにとらわれず、仮説をたてて実験した結果から面白いことがわかったら、その結果からさらに深めていってもいい。実験は仮説を証明するために行うものなので、仮説が証明できないというデータが出たら結果に従うこと。実験を繰り返す中で、途中でテーマと違う面白いことを見つけたら、そこをやってみる。そこからできることが増えてくる。結果を正確に捉えて、計画的に実験を行う。
- ⑤一緒に楽しむことができた。また、先生によってきて質問してくるようになった。議論というのはけんかじゃないということ。
- ⑥数学では、表現の仕方を工夫することで、前が開けることがある。そこから、高校範囲を超える内容にも進むことができる。
- ⑦生徒同士でするとい質問をあまりされない。



## ↑ 2年生の研究の中間発表会場の様子です！！

(^^)